

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度	科目名	バンドヴォーカル1
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	その都度課題曲の歌詞、または楽譜を配布				
担当教員情報					
担当教員	宮本美季		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
このクラスでは実践的に生の楽器で演奏をする、「アンサンブル」を目的としています。カラオケ音源で歌って、最小限で完結させてしまう事が多い昨今、実際音を一緒に出して、その中で行われる音の会話ややり取りを体感してください。「声」もひとつの楽器である認識、そしてほかの楽器とのコミュニケーション無くしては成立しないことをわかってもらえたらと思います。また、その自由度の高さを楽しみながらクリエイティブに楽しんで歌えるとともに良いです。リハーサルのテクニックや、ステージパフォーマンスなど、ボーカリストとして、パフォーマーとして、必要な様々なことを年かけて学んでいきます。					
到達目標					
まずはほかの楽器の生の演奏にのせて歌う、という体験をしてもらい、その中で自分らしいパフォーマンスができるようになる事が第一の目標です。余裕が出てきたら、ステージの使い方、お客さんとの距離の取り方など、ステージパフォーマンスに意識を傾けていきます。最終的にはアドリブや、「ライブ」として成立するレベルに持っていく事がこのクラスでの目標となっています。					
授業概要	まずは1週目に課題曲を渡して、ボーカリスト、各楽器に分かれ個別の指導があります。この際にその曲に関する専門的分野でのレッスンが行われます。曲の解釈であったり、発音など。その次の週には個別の歌唱指導がピアノ伴奏のみであり、いよいよ3週目には全員一緒に、つまりバンドでの合わせがあります。この3週目にいく前の2回分のレッスンの重要性はいうまでもありませんが、突然の合わせで歌えるようにはもちろんならないので、この3回で1クール、という流れをしっかりと意識してください。				
注意点	邦楽、洋楽と交互に課題曲が渡されるようになっていますが、得意、不得意もあると思います。また、1、2回目の練習のクラスに來ず、3回目の本番のみに来るケース中にもあります。その場合は歌唱させることはできません。しっかりと準備をし、事前の授業に出席した人のみアンサンブルで歌えると認識してください。もちろん授業内の評価もそれに準じます。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができません。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	節目になるテストは、その準備と完成度を求めます。		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	30%	毎課題曲のアンサンブルの発表はテストと同じくらい重要視しています。		
	平常点	40%	日々のクラスでの態度、姿勢は何よりも大切です。出席率はとても重要視します。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	課題曲1（邦楽）①		ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）		
2回	課題曲1（邦楽）②		ピアノ伴奏による歌唱指導		
3回	課題曲1（邦楽）③		バンドとの合わせ		
4回	課題曲2（洋楽）①		ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）		
5回	課題曲2（洋楽）②		ピアノ伴奏による歌唱指導		
6回	課題曲2（洋楽）③		バンドとの合わせ		
7回	課題曲3（邦楽）①		ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）		
8回	課題曲3（邦楽）②		ピアノ伴奏による歌唱指導		
9回	課題曲3（邦楽）③		バンドとの合わせ		
10回	課題曲4（洋楽）①		ボーカルのみのクラス（発音、解釈、エンディング、フォームなどの確認）		
11回	課題曲4（洋楽）②		ピアノ伴奏による歌唱指導		
12回	課題曲4（洋楽）③		バンドとの合わせ		
13回	復習（バンドリハーサル）①		1学期を通して演奏したことある曲を総復習		
14回	復習（バンドリハーサル）②		バンドとのゲネプロ		
15回	テスト		ライブ同様、演奏してもらいます		